

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年6月26日
【事業年度】	第65期（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）
【会社名】	株式会社 木曽路
【英訳名】	KISOJI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松原 秀樹
【本店の所在の場所】	名古屋市昭和区白金三丁目18番13号
【電話番号】	052（872）1811
【事務連絡者氏名】	経理部長 服部 昭仁
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝三丁目43番15号（芝信三田ビル4階）
【電話番号】	03（3798）7131
【事務連絡者氏名】	専務取締役 木野 克典
【縦覧に供する場所】	株式会社 木曽路 東京本部 （東京都港区芝三丁目43番15号 芝信三田ビル4階） 株式会社 東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社 名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の状況

回次	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
決算年月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月
売上高 (百万円)	44,187	43,505	44,150	45,391	45,721
経常利益 (百万円)	386	408	1,362	1,637	1,424
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	550	1,260	417	739	612
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	-	-	-	-	-
資本金 (百万円)	10,056	10,056	10,056	10,056	10,056
発行済株式総数 (株)	25,913,889	25,913,889	25,913,889	25,913,889	25,913,889
純資産額 (百万円)	30,796	29,018	29,153	29,702	30,000
総資産額 (百万円)	38,635	38,087	38,685	39,467	39,085
1株当たり純資産額 (円)	1,191.77	1,122.96	1,128.22	1,149.49	1,161.08
1株当たり配当額 (円)	22	14	14	14	14
(内 1株当たり中間配当額)	(11)	(9)	(7)	(7)	(7)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	21.30	48.78	16.15	28.61	23.70
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	16.13	-	-
自己資本比率 (%)	79.7	76.2	75.4	75.3	76.8
自己資本利益率 (%)	1.8	4.2	1.4	2.5	2.1
株価収益率 (倍)	-	-	99.5	65.2	79.7
配当性向 (%)	-	-	86.7	48.9	59.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,010	2,035	2,818	2,688	1,792
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,107	696	155	907	1,144
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	759	726	599	562	552
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	9,172	9,784	11,848	13,066	13,162
従業員数 (人)	1,244	1,207	1,182	1,194	1,217
(外、平均臨時雇用者数)	(3,737)	(3,626)	(3,624)	(3,767)	(3,790)

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。また、持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため、記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 第61期及び第62期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。なお、平成23年9月30日に第3回無担保転換社債型新株予約権付社債を満期償還しております。
4. 第64期及び第65期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
5. 第61期及び第62期の株価収益率及び配当性向については、当期純損失のため記載しておりません。
6. 従業員数は、就業員数を表示しており、「平均臨時雇用者数」は、1日8時間勤務換算による月平均人数を記載しております。

2【沿革】

当社は株式の額面変更を図るため、昭和55年12月1日を合併期日として休業状態にあった株式会社小川商店（設立昭和25年5月20日）に吸収合併されました。従って、法律上消滅した旧株式会社木曽路及び株式会社地中海が実質上の存続会社であるため、以下では特にことわりがない限り実質上の存続会社である被合併会社に関して記載しております。

年月	沿革
昭和27年9月	名古屋市中区裏門前町に資本金450千円で株式会社まつば喫茶を設立。昭和25年7月に創業した喫茶業「まつば喫茶」を継承。
昭和32年7月	名古屋市中村区広小路西通に資本金3,300千円で株式会社松葉を設立。同じく喫茶業を開始。
昭和35年12月	名古屋市昭和区東郊通に資本金3,500千円で株式会社東郊松葉を設立。同じく喫茶業を開始。
昭和38年12月	名古屋市熱田区金山町に出資金6,000千円で有限会社松葉金山店を設立。喫茶業と洋菓子の製造販売を行う。
昭和41年9月	株式会社東郊松葉が民芸風しゃぶしゃぶの木曽路第1号店を名古屋市中区南瓦町に開店。
昭和46年2月	株式会社松葉を株式会社地中海と商号変更すると共に、同日本社を名古屋市中区西瓦町に移転。
昭和46年5月	株式会社地中海がファミリーレストラン地中海第1号店を名古屋市中区新栄一丁目を開店。
昭和48年10月	株式会社まつば喫茶と株式会社東郊松葉が合併し、株式会社松葉となる。
昭和49年2月	株式会社松葉を株式会社木曽路に商号変更。
昭和49年2月	有限会社松葉金山店を有限会社松葉に商号変更。
昭和50年6月	株式会社木曽路が総合事業部としてセントラルキッチンを名古屋市天白区天白町植田に設置。
昭和51年8月	有限会社松葉が民芸風居酒屋として、居来瀬第1号店を名古屋市熱田区金山に開店。
昭和53年3月	株式会社地中海と有限会社松葉が合併し、株式会社地中海となる。
昭和55年12月	経営の効率化及び株式の額面変更を図るため、株式会社木曽路と株式会社地中海が株式会社小川商店に吸収合併され、同日商号を株式会社木曽路に変更する。本社は、名古屋市中区大須三丁目
昭和56年7月	和風のファミリーレストランとして、ファミリー木曽路第1号店を名古屋市南区星崎に開店。
昭和57年4月	関東地区しゃぶしゃぶ木曽路第1号店として、東京都中央区銀座五丁目を開店。
昭和58年3月	東京本部を東京都中央区銀座五丁目
昭和58年9月	本社を名古屋市中区白金三丁目
昭和61年5月	東京本部事務所を東京都港区芝五丁目
昭和62年10月	関西地区しゃぶしゃぶ木曽路第1号店として、大阪市北区曽根崎新地に開店。
昭和62年11月	名古屋証券取引所市場第二部へ上場。
平成元年1月	大阪本部事務所を大阪府吹田市江坂に設置。
平成2年11月	九州地区しゃぶしゃぶ木曽路第1号店として、福岡市中央区天神に開店。
平成4年4月	本社に木曽路調理スクールを開校。
平成4年7月	しゃぶしゃぶ木曽路瓦町店を大型店舗（5階建）として改築オープン。
平成5年3月	関東地区居酒屋の居来瀬部門第1号店として、東京都品川区に「素材屋」の屋号で開店。
平成6年1月	木曽路名古屋工場（物流センター兼調理工場）を愛知県大府市に設置。
平成6年2月	セントラルキッチンを木曽路名古屋工場に移転。
平成8年4月	焼肉専門店として、焼肉じゃんじゃん亭第1号店を名古屋市南区星崎に開店。
平成8年5月	居酒屋の居来瀬部門の名古屋地区の屋号を「居来瀬」から東京地区と同じ屋号である「素材屋」に統一変更し、素材屋部門となる。
平成9年7月	東京本部事務所を東京都港区芝三丁目
平成11年6月	イタリアン料理店として、ラ・ステラコーレ第1号店を名古屋市中区千種区に開店。
平成11年9月	ファミリーレストラン地中海部門を撤退。
平成12年7月	鶏料理店として、とりかく第1号店を東京都港区芝に開店。
平成12年9月	東京証券取引所市場第二部へ上場。
平成12年12月	関西地区素材屋第1号店として、兵庫県伊丹市に開店。
平成13年9月	東京証券取引所、名古屋証券取引所市場第一部に指定。
平成19年6月	新和食業態として、鈴のれん第1号店を名古屋市中区天白区に開店。
平成20年3月	名古屋工場 愛知県H A C C P 認定。
平成22年3月	イタリアン料理店 閉店。
平成24年4月	関西地区鈴のれん第1号店として、大阪府東大阪市に開店。
平成24年10月	ワイン食堂として、ワイン食堂ウノ第1号店を名古屋市中村区に開店。
平成25年10月	関東地区ワイン食堂ウノ第1号店として、東京都品川区に開店。

3【事業の内容】

当社は料理、飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食業であります。

営業部門としては、しゃぶしゃぶ・日本料理の木曽路部門、居酒屋の素材屋部門、和食レストランの鈴のれん部門、鶏料理のとりかく部門、焼肉のじゃんじゃん亭部門及びその他部門（ワイン食堂ウノ、外販及び不動産の賃貸等）となっており、店舗出店地域は東海地区の4県、関東地区の1都6県、関西地区の1府3県及び九州地区の1県で、店舗数は169店舗であります。

なお、当社の事業は飲食店としての事業がほとんどを占める単一セグメントであります。

当社の部門別の主な事業内容は次のとおりであります。

部門別		主な事業内容
木曽路		しゃぶしゃぶ、日本料理
素材屋		居酒屋
鈴のれん		和食レストラン
とりかく		鶏料理
じゃんじゃん亭		焼肉
その他	ウノ 外販 不動産賃貸等	ワイン食堂 しぐれ煮、胡麻だれ類 店舗賃貸

当社の部門別及び地域別の店舗数は次のとおりであります。

平成26年3月31日現在

	東海地区	関東地区	関西地区	九州地区	合計
木曽路	31	55	29	3	118
素材屋	6	9	4	-	19
鈴のれん	7	-	2	-	9
とりかく	-	10	-	-	10
じゃんじゃん亭	8	-	-	-	8
ウノ	4	1	-	-	5
合計	56	75	35	3	169

4【関係会社の状況】

当社は、関係会社がないため、該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,217 (3,790)	39.1	9.3	5,156,078

当社の事業は単一セグメントでありますので、部門別の従業員数を示すと次のとおりであります。

部門別	従業員数(人)
木曽路	970 (3,078)
素材屋	62 (273)
鈴のれん	33 (158)
とりかく	18 (81)
じゃんじゃん亭	19 (81)
その他	115 (119)
合計	1,217 (3,790)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員(1日8時間勤務換算による月平均人数)を()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(2) 労働組合の状況

当社の労働組合は、次のとおりであります。

名称 全木曽路労働組合
 上部団体名 UIゼンセン同盟(平成2年8月27日加入)
 結成年月日 平成元年6月29日
 組合員数 956名(平成26年3月31日現在)
 尚、労使関係は円満に推移し、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当事業年度におけるわが国経済は、経済政策や金融緩和による円安、株価の上昇に加え、消費税率引上げに伴う駆け込み需要などから緩やかな景気回復がみられるものの、先行する物価上昇や海外経済動向など先行きは依然不透明な状況で推移しました。

個人消費に関しましては、株価上昇による資産効果や消費税率引上げに伴う駆け込み需要等から高額商品の好調な消費、一部に雇用・所得環境の改善などを背景に底堅く推移しました。

外食業界におきましては、消費マインドの改善から回復の兆しがみられるものの、原料価格やエネルギー価格の上昇、採用環境の悪化など依然として厳しい経営環境で推移しました。

このような経営環境の中で当社は、5店舗の新規出店、1店舗の改築、1店舗の改装、1店舗の業態転換（素材屋からウノ）、8店舗の退店を実施し、その結果、当事業年度末の店舗数は169店舗となりました。

営業面では、旬の料理の提供やお客ニーズに合わせたメニューの投入など料理・サービスの充実に努めるとともに、季節毎のイベントを中心に販売促進活動を実施しました。また、業績不振店の退店を実施する一方で、新業態の出店により売上高は前事業年度に比べ微増となりました。

費用面では、ポイント制度変更に伴い販売促進費が減少した一方で、天候不順による生鮮食料品価格の上昇、光熱費の上上がりや厳しい採用環境のなか募集費などの増加を余儀なくされました。

この結果、当事業年度の売上高は457億21百万円（前事業年度比0.7%増加）、営業利益は13億90百万円（同7.1%減少）、経常利益は14億24百万円（同13.0%減少）となりました。また、特別損失として、固定資産除却損40百万円、減損損失69百万円、合計1億10百万円（前事業年度は1億75百万円）を計上しました。

以上の結果、当期純利益は6億12百万円（前事業年度比17.2%減少）となりました。また、1株当たり当期純利益は23.70円（前事業年度は28.61円）となりました。

当事業年度におけるセグメント別の概況については、当社の事業は単一セグメントでありますので、その概況を部門別に表示すと次のとおりであります。

木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、2店舗の新規出店、1店舗の改築、1店舗の改装及び2店舗の退店により、当事業年度末店舗数は118店舗となりました。

営業面では、季節毎のイベントや恒例の「しゃぶしゃぶ祭り」、「とらふぐ祭り」を実施するとともに旬のメニューの充実に努め、また、幅広いお客様のニーズに合わせた新メニューを投入しました。その結果、売上高は383億30百万円（前事業年度比0.6%増加）となりました。

素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、1店舗の新規出店、7店舗の退店（ウノへの業態転換1店舗を含む）により、当事業年度末店舗数は19店舗となりました。

営業面では、コアメニューの串焼きの拡販、旬メニューや焼酎のお値打ち販売並びに平日限定フェアの実施により来店客数の増加に努めましたが、既存店の売上高は前事業年度を下回りました。また、当事業年度中の退店が響き、売上高は32億93百万円（同12.7%減少）となりました。

鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、店舗の異動はなく、当事業年度末店舗数は9店舗であります。

営業面では、メニュー内容の見直しや季節メニューを充実するとともに、接客サービス、販売促進活動の見直しを行い営業体制の強化に努めました。当事業年度の売上高は14億59百万円（同11.0%増加）となりました。

とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、店舗の異動はなく、当事業年度末店舗数は10店舗であります。

営業面では、宴会メニューの充実やこだわりの旬の一品提供などを行った結果、既存店の売上高は前事業年度を上回りましたが、前事業年度の1店舗の退店が響き、売上高は10億37百万円（同1.4%減少）となりました。

じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、店舗の異動はなく、当事業年度末店舗数は8店舗であります。

営業面では、学生のイベント等に合わせた予約獲得活動を強化し、また、全店に食べ放題メニューを拡大し来店客数の増加に努めました。その結果、前事業年度に2店舗の退店を実施していますが、売上高は9億51百万円（同0.6%増加）となりました。

その他部門

その他部門は、ワイン食堂「ウノ」、外販（しぐれ煮、胡麻だれ類）、不動産賃貸等であります。このうち、ワイン食堂「ウノ」は3店舗を新規出店し、当事業年度末店舗数は5店舗となりました。

その他部門の売上高は6億48百万円（同246.5%増加）であります。

(2) キャッシュ・フロー

当事業年度のキャッシュ・フローは、営業活動から得られたキャッシュ・フローは、17億92百万円の流入超過（前事業年度比8億96百万円の減少）となりました。主な内容は、税引前当期純利益13億13百万円に加え、減価償却費14億18百万円、減損損失69百万円などに対し、法人税等の支出10億30百万円などであります。

投資活動に使用されたキャッシュ・フローは11億44百万円の流出超過（前事業年度比2億36百万円の増加）となりました。主な内容は、店舗などの有形固定資産の取得による支出11億92百万円に対し、差入保証金の回収（差入と回収の純額）が2億22百万円であります。

財務活動に使用されたキャッシュ・フローは、5億52百万円の流出超過（前事業年度比10百万円の減少）となりました。主な内容は、リース債務の返済1億87百万円と配当金の支払い3億61百万円であります。

以上の結果、当事業年度末の現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ95百万円増加し、131億62百万円となりました。

2【販売及び仕入の状況】

(1) 販売実績

当社の事業は飲食店としての事業がほとんどを占める単一セグメントであります。当事業年度における販売実績の内訳を部門別・地域別に示すと次のとおりであります。

部門別販売実績

部門別	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	前期比(%)
木曽路(百万円)	38,330	100.6
素材屋(百万円)	3,293	87.3
鈴のれん(百万円)	1,459	111.0
とりかく(百万円)	1,037	98.6
じゃんじゃん亭(百万円)	951	100.6
その他(百万円)	648	346.5
合計(百万円)	45,721	100.7

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 総販売実績に対し、10%以上に該当する販売先はありません。

地域別販売実績

地域別	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	前期比(%)
愛知県(百万円)	12,413	105.8
岐阜県(百万円)	869	85.1
三重県(百万円)	817	100.7
静岡県(百万円)	346	102.2
東京都(百万円)	12,778	99.3
神奈川県(百万円)	3,138	97.5
埼玉県(百万円)	3,360	97.6
千葉県(百万円)	1,409	97.2
茨城県(百万円)	306	96.7
群馬県(百万円)	284	95.8
栃木県(百万円)	217	-
奈良県(百万円)	336	72.3
和歌山県(百万円)	269	100.1
大阪府(百万円)	6,143	102.0
兵庫県(百万円)	2,214	95.0
福岡県(百万円)	814	101.1
合計(百万円)	45,721	100.7

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 仕入実績

項目別	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	前期比(%)	
原材料	肉類(百万円)	3,282	104.8
	野菜類(百万円)	1,557	102.1
	魚介類(百万円)	3,228	101.3
	調理済加工食品(百万円)	2,498	102.6
	飲料(百万円)	1,851	101.8
	米・パン類(百万円)	605	102.0
	乳製品(百万円)	187	101.8
小計(百万円)	13,210	102.6	
商品	店頭商品(百万円)	183	102.6
合計(百万円)	13,393	102.6	

(注) 1. 店頭商品とは菓子類及び胡麻だれ等であります。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

わが国において人口の減少・高齢化や国際化が一層進展していくと共に、外食企業の経営環境は大きく変わっていくものと予想されます。その中で当社は、前述の経営理念に基づいて会社の成長性・収益性の向上を実現していくために次のような課題に取り組んでいきます。

第一は、「顧客起点営業の推進」であります。多様化するお客様のニーズにお応えするために料理の品質や接客サービスを向上させ、お客様に一層満足して頂けるようになることを目指します。確実な衛生安全の確保はもとより、マニュアルを超えて、ひとり一人のお客様に最適の料理とサービスを提供できるように努めます。

第二は、「人材の確保と育成」であります。中期的な事業計画を踏まえた社員の採用を実施するとともに、基礎からハイレベルの教育体系によって調理技能と接客技能の一層の向上に取り組めます。また、高齢化・国際化の進展に伴う社員構成の複雑化に備え、職務開発や採用・訓練、人事管理などの体制整備を推進します。

第三は、「収益基盤の拡充」であります。経営理念、基本コンセプトに立脚した事業展開はもとより、変化する経営環境に適合したビジネスモデルを常に模索し、強固な収益基盤の構築を目指します。また、外食市場の縮小傾向が続く中で成長を遂げるため、店舗立地の開拓や新業態の開発・展開に積極的に取り組めます。

4【事業等のリスク】

(1) 業績の季節変動について

当社の主力商品である「しゃぶしゃぶ」の需要は、年末・年始を含めた冬季に高まるため、当社の売上高及び営業利益は下半期に片寄る傾向があります。

最近5年間の状況は下表のとおりです。

	売上高			営業利益		
	上半期	下半期	通 期	上半期	下半期	通 期
平成22年3月期(百万円)	20,392	23,794	44,187	1,122	1,415	293
構成比(%)	46.2	53.8	100.0	-	-	100.0
平成23年3月期(百万円)	19,904	23,601	43,505	1,153	1,412	258
構成比(%)	45.8	54.2	100.0	-	-	100.0
平成24年3月期(百万円)	19,771	24,378	44,150	921	2,173	1,251
構成比(%)	44.8	55.2	100.0	-	-	100.0
平成25年3月期(百万円)	20,586	24,805	45,391	847	2,343	1,496
構成比(%)	45.4	54.6	100.0	-	-	100.0
平成26年3月期(百万円)	20,335	25,386	45,721	773	2,164	1,390
構成比(%)	44.5	55.5	100.0	-	-	100.0

(注) 今後につきましても、下半期依存型の傾向は続くことが考えられます。

(2) 原材料の調達について

当社の原材料仕入額において、肉類、野菜、魚介類が50%以上を占めています。異常気象や大規模災害、安全性問題の発生等により、これらの食材の調達が広範囲かつ長期にわたり阻害された場合には、当社業績に大きな影響が及ぶ可能性があります。

(3) 主力商品への依存

当社の主力商品である「しゃぶしゃぶ」の売上が予期せぬ事情によって著しく減少した場合には、他商品の売上で補うことが困難になる可能性があります。

(4) 出店用地の確保

当社はチェーンレストランとして計画的な出店により業容の拡大を図っていますが、競争状況の変化や土地所有者の都合などにより適切な出店用地を確保できない場合には、出店計画の進捗が遅れ、当社の成長性に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 個人情報の管理

当社は多数の顧客情報を有しており、その管理に万全を期していますが、予期せぬ事情により情報流出や不正使用等が発生した場合には、その対応のために多額の費用が発生する可能性があります。

(6) 品質問題

当社は食品の安全性の観点から、最適な品質を確保すべく社内体制を整備・運営していますが、予期せぬ事情によって食品事故等の問題が発生する可能性は否定できません。

(7) 食品の安全性問題

食品の安全性確保については社内体制を整備・運営していますが、社会的な食品安全性問題が発生した場合には、顧客の外食需要が抑制され、来店客の減少等、業績が影響を受ける可能性があります。

(8) 立地環境の変化

当社は、店舗を最小単位として固定資産をグルーピングしていますが、店舗の立地環境が大きく変化し、その結果、店舗の業績が悪化し投下資金の回収が困難になる場合には、減損損失又は店舗撤退に伴う固定資産除却損が発生する可能性があります。

(9) 大規模災害

当社の店舗網は、関東・東海・関西・北九州の大都市圏に集中していますが、これらの地域で巨大地震等の大規模災害が発生した場合には、当社業績が大きく影響を受ける可能性があります。

なお、文中の将来に関する事項の判断につきましては、有価証券報告書提出日現在においてなされたものであります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 当事業年度の経営成績の分析

当社の当事業年度の経営成績は、「1 業績等の概要(1)業績」に記載したとおりであります。

売上高に関しましては、旬の料理の提供やお客様ニーズに合わせたメニューの投入など料理・サービスの充実に努めるとともに、季節毎のイベントを中心に販売促進活動を実施しました。また、業績不振店の退店を実施する一方で新業態の出店により、売上高の伸び率は0.7%（既存店は0.1%）となりました。

売上高原価率は、生鮮食料品価格の値上がりやメニュー政策により、前事業年度と0.3ポイント上昇の31.5%となりました。

売上高営業利益率は、前事業年度に比べ0.3ポイント減少の3.0%となりました。これは、販売費及び一般管理費が前事業年度に比べ1億95百万円減少したものの、売上高がの伸び率が0.7%にとどまり、売上原価率が0.3ポイント上昇したことによるものであります。経常利益は、営業利益の減少により前事業年度に比べ2億13百万円の減益となり、売上高経常利益率は、前事業年度に比べ0.5ポイント減少の3.1%となりました。

(2) 当事業年度の財政状態の分析

当事業年度の財政状態は、次のとおりであります。

事業年度末の総資産は390億85百万円で前事業年度末比3億82百万円の減少となりました。そのうち、流動資産は現金及び預金、棚卸資産の増加を主因に94百万円の増加となりました。また、固定資産は4億76百万円の減少となりました。これは、保証金の回収や減価償却、除却、減損処理などによる固定資産の減少額が店舗等の設備投資額を上回ったことによるものであります。

一方、負債は、90億85百万円で前事業年度末比6億79百万円の減少となりました。これは設備等の未払金、リース債務及び未払法人税等などが減少したことによるものであります。また、当事業年度末の純資産は300億円で前事業年度末比2億97百万円の増加となりました。主な増減要因は当期純利益6億12百万円(増加)、剰余金の配当3億61百万円(減少)、投資有価証券評価差額金50百万円(増加)であります。

以上の結果、当事業年度末の自己資本比率は76.8%（前事業年度末は75.3%）、1株当たり純資産は1,161.08円（同1,149.49円）となりました。

(3) 当事業年度のキャッシュ・フローの状況の分析

当事業年度のキャッシュ・フローの状況は、「1 業績等の概要（2）キャッシュ・フロー」に記載したとおりであります。

当事業年度の現金及び現金同等物は95百万円の増加となりました。これは、営業活動によって得られたキャッシュ・フローが、税引前当期純利益の減少、法人税等の支払額の増加により前事業年度に比べ8億96百万円減少の17億92百万円となったのに対し、投資活動により使用されたキャッシュ・フローが、新規出店や改築・改装等による設備投資や退店に伴う支出により前事業年度に比べ2億36百万円増加の11億44百万円となりました。また、財務活動により使用されたキャッシュ・フローが前事業年度に比べ10百万円減少の5億52百万円となったことによるものであります。

(4) 経営者の問題認識と今後の方針

わが国の経済動向を展望すると、政府の経済対策や企業業績の回復などから緩やかな回復がみられるものの、消費税率引上げによる消費低迷や海外経済の動向などの影響懸念が残り、依然として不透明な状況が続くと予想されます。

個人消費は、一部で雇用・所得環境の改善がみられるものの、駆け込み需要の反動減や公的負担の増加、物価上昇などから節約指向が底流にあり、生活防衛を意識しながら推移していくと予想されます。

外食業界においては、人口減少、少子高齢化による市場規模の縮小や消費者の指向変化、安全指向の強まる中で、企業間・店舗間の競争は益々激しくなると予想されます。

このような経営環境の中で、当社は、顧客起点営業の実践並びに人材の育成を通じて、来店客数と売上高の増加を図ります。また、新事業開発の推進と新規出店の促進により収益基盤の強化・拡充に取組みます。

経費管理面におきましては、食材や消耗品の仕入れに関して、品質を確保しつつ一層の合理化を推進し、また、経費のムダ・ムリ・ムラを徹底的に排除し、経費効率の改善により適正利益の確保に努めます。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度中に実施しました設備投資総額（差入保証金等を含む）は、14億2百万円（前事業年度比2.9%増加）であり、その内訳は、店舗の新設に7億12百万円、店舗の改築・改装等に4億66百万円、名古屋工場設備改修及び情報システム関連投資等に2億23百万円であります。

また、当事業年度中に除却しました固定資産は、35百万円であります。

なお、当事業年度中に出店した新設店舗は5店舗、改築・改装は2店舗、業態転換は1店舗であります。

（注）当社の事業は飲食店としての事業がほとんどを占める単一セグメントであります。（以下も同様）

2【主要な設備の状況】

当社は、平成26年3月31日現在169店舗を運営しております。また、東京と大阪に本部を設置しており、愛知県大府市に加工工場を所有しております。主たる設備は営業店舗であり、店舗設備には建物の他、構築物、工具、器具及び備品等があります。店舗用の土地につきましては、自社所有は5店舗であります。

主要な設備は以下のとおりであります。なお、営業店舗については地域別にて記載しております。

平成26年3月31日現在

区分	事業所数	利用目的	土地		建物 (百万円)	構築物 (百万円)	工具、 器具及 び備品 (百万円)	リース 資産 (百万円)	その他 (百万円)	投下資本 合計 (百万円)	従業員数 (人)
			面積 (㎡)	金額 (百万円)							
名古屋本社 (名古屋市昭和区)	1	事務所	2,250.47	623	92	4	92	9	18	841	100
東京本部 (東京都港区)	1	事務所	-	-	-	-	3	1	-	4	43
大阪本部 (大阪府吹田市)	1	事務所	-	-	0	-	0	0	0	1	27
名古屋工場 (愛知県大府市)	1	加工工場	9,056.00	1,409	153	81	9	0	91	1,746	15
賃貸設備 (名古屋市昭和区)	1	賃貸設備	694.20	68	7	0	-	-	-	76	-
愛知県	48	店舗	56,648.12 (53,535.41)	2,011	2,259	119	158	53	3	4,605	272
岐阜県	3	店舗	7,913.79 (7,913.79)	-	149	6	7	6	-	170	22
三重県	4	店舗	7,636.96 (7,636.96)	-	118	5	4	0	-	129	16
静岡県	1	店舗	1,838.69 (1,838.69)	-	75	3	2	0	-	81	7
東京都	48	店舗	30,879.23 (28,807.51)	1,524	1,933	83	100	95	9	3,747	249
神奈川県	10	店舗	13,963.30 (13,963.30)	-	659	53	27	26	-	766	74
埼玉県	9	店舗	14,212.57 (14,212.57)	-	572	50	25	41	-	690	75
千葉県	5	店舗	8,567.37 (8,567.37)	-	343	23	10	15	-	392	37
茨城県	1	店舗	2,150.00 (2,150.00)	-	55	4	0	0	-	60	7
栃木県	1	店舗	1,997.71 (1,997.71)	-	134	16	20	14	-	186	9
群馬県	1	店舗	1,616.72 (1,616.72)	-	81	8	1	0	-	92	7
奈良県	1	店舗	4,244.65 (4,244.65)	-	40	1	0	0	-	43	8
和歌山県	1	店舗	1,917.00 (1,917.00)	-	57	6	1	1	-	67	7
大阪府	25	店舗	29,448.79 (29,448.79)	-	1,201	67	52	25	-	1,347	159

区分	事業所数	利用目的	土地		建物 (百万円)	構築物 (百万円)	工具、器具及び備品 (百万円)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	投下資本合計 (百万円)	従業員数 (人)
			面積 (㎡)	金額 (百万円)							
兵庫県	8	店舗	8,204.15 (8,204.15)	-	339	21	36	10	-	407	62
福岡県	3	店舗	2,604.90 (2,604.90)	-	104	9	3	1	-	118	21
合計	174	-	205,844.62 (188,659.52)	5,637	8,380	568	560	307	122	15,577	1,217

- (注) 1. 土地面積 () 書きは賃借中のものを内書しております。
2. その他の金額は、「機械及び装置」及び「車両運搬具」であります。
3. 投下資本金額は帳簿価額(消費税等抜きの金額)で表示してあります。
4. 賃貸設備は、名古屋市昭和区の旧店舗を飲食店へ賃貸しているものであります。
5. 上記賃借中の土地の他に建物等を賃借しており、土地を含めた年間賃借料は4,076百万円であります。

3【設備の新設、除却等の計画】

平成26年4月に始まる事業年度の設備投資計画は、総額20億50百万円を見込んでおり、そのうち当事業年度末日現在における進行中及び具体的な計画の主なものは次のとおりであります。

設備の内容				計画金額 (百万円)	既支払額 (百万円)	今後の所要金額 (百万円)	着工年月	完成年月	増加能力 (増加客席数)
区分	部門名	地区	店舗数						
新設店舗	その他	関東	1	79	-	79	平成26年4月	平成26年6月	100
既存店の改装等			-	650	0	650	平成26年3月	平成27年3月	-
その他(工場、情報等)			-	170	-	170	平成26年4月	平成27年3月	-
合計			1	899	0	899	-	-	100

- (注) 1. 今後の所要資金は、自己資金でまかなう予定であります。
2. 上記の金額には、店舗賃借のための差入保証金を含んでおります。
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年6月26日)	上場金融商品取引所名	内容
普通株式	25,913,889	25,913,889	東京証券取引所 名古屋証券取引所 各市場第一部	単元株式数 100株
計	25,913,889	25,913,889	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年3月31日 (注)	0	25,913	0	10,056	0	9,872

(注) 新株予約権付社債の株式への転換による増加(平成21年4月1日~平成22年3月31日)であります。

(6) 【所有者別状況】

平成26年 3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	30	19	351	82	8	19,648	20,138	
所有株式数(単元)	-	44,067	729	37,866	8,347	58	167,457	258,524	61,489
所有株式数の割合(%)	-	17.04	0.28	14.64	3.22	0.02	64.77	100.00	

(注) 自己株式75,908株は、「個人その他」に759単元及び「単元未満株式の状況」に8株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年 3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
木曽路共栄会	名古屋市昭和区白金3丁目18番13号	1,123	4.33
松原 秀樹	名古屋市昭和区	733	2.83
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	685	2.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	642	2.47
木野 ひとみ	東京都大田区	606	2.34
吉江 則子	名古屋市天白区	517	1.99
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋1丁目23番1号	496	1.91
株式会社プルメリア	名古屋市昭和区鶴舞4丁目8番16号	420	1.62
麒麟麦酒株式会社	東京都中野区中野4丁目10番2号	352	1.35
サントリーピア&スピリッツ株式会社	東京都港区台場2丁目3番3号	352	1.35
計	-	5,929	22.87

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成26年 3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 75,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,776,500	257,765	-
単元未満株式	普通株式 61,489	-	-
発行済株式総数	25,913,889	-	-
総株主の議決権	-	257,765	-

【自己株式等】

平成26年 3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社木曽路	名古屋市昭和区白金三丁目18番13号	75,900	-	75,900	0.29
計	-	75,900	-	75,900	0.29

(9) 【ストックオプション制度の内容】
該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】
該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】
該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,684	3,125,325
当期間における取得自己株式	275	510,735

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年 6月 1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (注) 1	-	-	-	-
保有自己株式数 (注) 2	75,908	-	76,183	-

(注) 1 . 当期間におけるその他には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡しによる株式は含まれておりません。

2 . 当期間における保有自己株式数には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡しによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社の利益配分につきましては、将来の事業展開に備え内部留保の充実に努めると共に、株主各位への安定した配当を維持することを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うこととし、その決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記の株主各位への安定配当の方針に基づき中間、期末ともに1株当たり7円の年間配当1株当たり14円を実施することを決定しました。

内部留保資金につきましては、新規出店及び既存店改装に充当し、今後の経営体質の強化並びに株主の利益確保のために活用していく所存であります。また、各事業年度の収益状況や配当性向等を勘案して、増配や株式分割など株主への利益還元を積極的に実施いたします。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成25年10月30日 取締役会決議	180	7
平成26年6月26日 定時株主総会決議	180	7

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	2,080	1,936	1,685	2,000	1,969
最低(円)	1,790	1,580	1,315	1,498	1,702

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	1,862	1,828	1,860	1,920	1,892	1,960
最低(円)	1,780	1,783	1,800	1,859	1,828	1,838

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		吉江 源之	昭和22年7月18日生	昭和46年4月 (株)協和銀行〔現 (株)りそな銀行〕入行 昭和52年4月 当社入社 昭和53年6月 当社商品部長 昭和56年7月 当社専務取締役就任 昭和62年6月 当社代表取締役就任 平成5年6月 当社代表取締役社長就任 平成18年6月 当社代表取締役会長就任 (現任)	(注) 2	221
取締役社長 (代表取締役)		松原 秀樹	昭和30年12月3日生	昭和54年4月 (株)ファミリーフーズ入社 昭和57年2月 当社入社 昭和58年3月 当社木曽路東京銀座店店長 昭和61年4月 当社東京本部次長 平成元年6月 当社取締役木曽路東京営業部長 平成5年4月 当社人事部長 平成5年6月 当社常務取締役就任 平成8年9月 当社木曽路営業本部長 平成13年3月 当社重要業務統括 平成13年6月 当社取締役副社長就任 平成14年6月 当社代表取締役副社長就任 平成18年6月 当社代表取締役社長就任 (現任)	(注) 2	733
専務取締役	東京駐在	木野 克典	昭和28年8月14日生	昭和52年4月 (株)東海銀行〔現 (株)三菱東京UFJ銀行〕入行 昭和61年2月 当社入社 昭和62年4月 当社事業開発室長 昭和62年6月 当社取締役就任 平成3年5月 当社商品部長 平成4年4月 当社人事企画部長 平成5年4月 当社東京本部長 平成5年6月 当社常務取締役就任 平成9年2月 当社素材屋東京営業部長 平成12年1月 当社東京本部長 平成13年6月 当社専務取締役就任(現任) 平成14年5月 当社東京駐在(現任) 平成17年8月 当社とりかく営業部長	(注) 2	141

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	内部監査室長、 衛生管理室担当	仲沢 栄一	昭和22年1月27日生	昭和48年8月 宝塚観光(株)営業支配人 昭和54年2月 当社入社、木曾路栄路店長代理 昭和54年9月 当社居来瀬営業部長 平成5年6月 当社取締役就任(現任) 平成9年2月 当社素材屋名古屋営業部長 平成10年2月 当社地中海営業部長 平成10年12月 当社事業開発室長 平成13年3月 当社内部監査室長(現任)	(注)2	12
取締役	商品部長、 外販営業部担当	稲垣 信一	昭和33年5月19日生	昭和48年3月 合資会社河芳入社 昭和60年8月 当社入社 平成12年4月 当社購買開発部長 平成14年5月 当社執行役員就任 平成15年4月 当社商品本部長兼購買開発部長 平成18年2月 当社商品本部長兼品質管理部長 平成19年6月 当社取締役就任(現任) 平成22年2月 当社商品本部長兼品質管理部長 兼購買開発部長 平成24年1月 当社商品部長(現任)	(注)2	1
取締役	人事総務部長	松岡 利朗	昭和39年9月26日生	昭和62年4月 当社入社 平成15年1月 当社人材開発部長 平成19年5月 当社人事本部長兼人事部長兼人 材開発部長 平成20年6月 当社執行役員就任 平成23年6月 当社取締役就任(現任) 平成24年1月 当社人事総務部長(現任)	(注)2	1
取締役	企画部長、 経理部・事務 能率センター 担当	大橋 浩	昭和38年7月16日生	昭和62年4月 当社入社 平成22年5月 当社企画部長(現任) 平成23年4月 当社執行役員就任 平成25年6月 当社取締役就任(現任)	(注)2	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)		松岡 宏昌	昭和18年7月24日生	昭和41年4月 小池理化学工業(株)入社 昭和44年4月 当社入社 昭和56年4月 当社人事部長 昭和60年4月 当社立地開発部長 平成元年10月 当社総務部長 平成3年6月 当社取締役就任 平成4年4月 当社人事部長 平成5年4月 当社地中海本部長 平成6年3月 当社地中海営業部長 平成9年2月 当社教育研修部長 平成10年8月 当社人事総務部長 平成12年2月 当社総務部長 平成13年3月 当社人材開発部長 平成15年1月 当社総務部担当兼特命担当 平成15年6月 当社監査役就任(現任)	(注)3	25
監査役 (常勤)		青野 康德	昭和26年6月24日生	昭和49年4月 社団法人瀬戸内海栽培漁業センター入社 昭和56年12月 当社入社 平成11年11月 当社大阪本部長 平成14年5月 当社執行役員就任 平成25年2月 当社人事総務部付部長 平成25年6月 当社監査役就任(現任)	(注)4	8
監査役		加藤 正樹	昭和20年4月15日生	昭和49年10月 公認会計士登録 平成4年7月 監査法人トーマツ〔現 有限責任監査法人トーマツ〕代表社員就任 平成19年6月 同法人退職 平成20年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	-
監査役		熊田 登与子	昭和30年11月27日生	昭和60年4月 弁護士登録 南館法律事務所〔現 南館・北川・伊藤法律事務所〕入所 平成8年4月 熊田法律事務所 入所 平成24年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	1
計						1,149

(注)1. 監査役加藤正樹及び熊田登与子は、社外監査役であり、かつ東京証券取引所及び名古屋証券取引所の上場規程による独立役員であります。

2. 平成25年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

3. 平成23年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

4. 平成25年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 平成24年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6. 当社では、執行役員制度を導入しております。

執行役員は、木曾路東京第一営業部長 合田光博、素材屋名古屋営業部長 村岡浩昭、大阪駐在 内田豊稔の3名であります。

7. 取締役会長吉江源之及び専務取締役木野克典は、取締役社長松原秀樹の姉妹の配偶者であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、「会社は社会の構成員の一員である」との認識のもとに、株主はじめ顧客、取引先、従業員、地域社会等の会社関係者と良好な関係を保ちつつ業務を遂行し、会社の目的の達成に努めることとあります。

また、経営活動においては、会社法・金融商品取引法はじめ諸法令を遵守することはもとより、会社の理念・方針・業績等の情報を適時・的確に開示し、経営の透明性を確保するとともに、株価や格付等に現れる会社に対する客観的な経営評価指標を尊重し、経営の有効性・効率性を堅持するよう努めております。

企業統治の体制

イ．企業統治の体制の概要

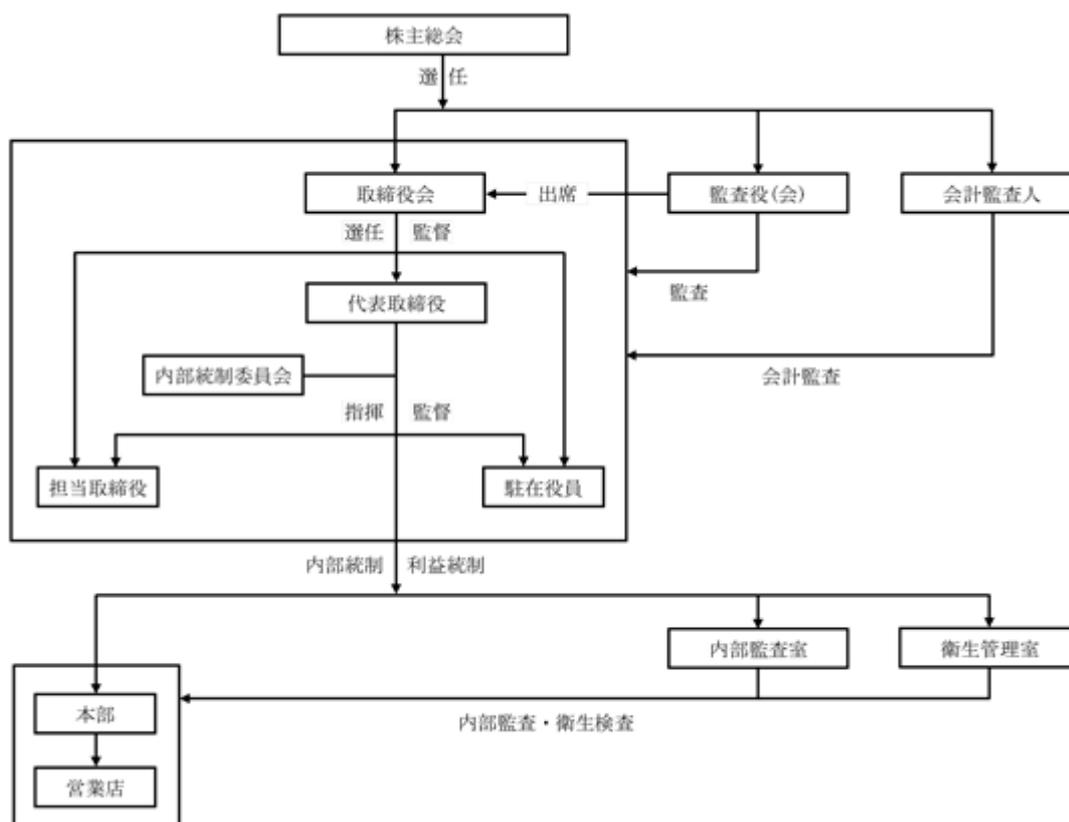
当社は監査役設置会社であり、取締役会と監査役会及び会計監査人という枠組みの中で、業務執行と監査・監督を行っております。

代表取締役は最高経営責任者として業務執行に当たり、また、取締役会決議により業務担当役員並びに駐在役員を任命して権限委譲を進め、経営の実効性と迅速性を追求しております。なお、当社は取締役会の指名による独自の執行役員制を実施し、執行役員を取締役に陪席させることにより審議内容の一層の充実を図っております。

代表取締役を複数選任し、重要事項について協議することとし、かつ協議の場に監査役の出席を求めています。

経営判断の適正を確保するために、高度に専門的な検討を要すると思われる案件については、外部専門家(コンサルタント、調査機関等)の意見を求めることとしております。

会社経営組織図



ロ．企業統治の体制を採用する理由

監査役(会)制度は既に定着しており、取締役の業務執行の適法性・妥当性を確保する上で有効に機能していると判断しております。

また、取締役は、取締役会における業務執行の決定に当たり、株主・投資者からの信頼を宗として、1.善管注意義務・忠実義務、2.遵法精神、3.客観的・科学的事実認識、4.合理的手続き、5.適時性の要件を確保するよう努めており、企業統治の体制は有効に機能していると判断しております。

八．内部統制システムの整備の状況

当社は、平成18年5月3日開催の取締役会において、内部統制システム構築に関する基本方針を定めました。当社取締役会は、取締役の職務執行が法令・定款に適合していることを確保するために、内部統制の機能が重要かつ不可欠であるとの認識に立ち、その整備・充実に向けて自主的な努力をすることとしています。内部統制制度を確立しその有効性を確保するために、代表取締役を委員長とする「内部統制委員会」を設置し運営しております。また、企業倫理や遵法精神の確立のために、行動規範である「木曽路行動憲章」を定めて周知・徹底を図っております。さらに、反社会的勢力との一切の関係を遮断し、被害の防止に努めるとともに、「公益通報規程」を定めて、企業倫理や法令遵守の問題に関する公益通報・相談の適正な運営に努めております。

内部管理面におきましては、部門別・階層別に職務の内容と責任・権限を明確に定め、内部統制を組織的に実施しております。また会計制度を確立して、総合予算制度、月次損益制度、独立採算制度による利益統制を実施しております。

二．リスク管理体制の整備の状況

事業活動に伴うリスクの管理としては、内部監査室、衛生管理室を設置して飲食業としての適正な業務運営の確立に努めております。特に衛生管理室長に対しては、飲食店としての基本である衛生管理に関して強力な指示・命令権を特別に付与しております。

また、不祥事故等の未然防止や業績悪化の兆候の早期把握のために、会計システムの整備・充実にも努めております。なお、当社経営と業績内容の妥当性につきましては、格付機関等の外部機関による当社経営分析・評価を活用してこれを検証しております。

大規模災害の発生時に人的・物的被害を最小限にとどめ、早期に営業を復旧し継続することを目的とする「事業継続基本計画」を定め、これを周知・徹底しております。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査につきましては、内部監査室（人員1名）を設置して臨店調査を主体に各部店における資産管理・労務管理・衛生管理等に関して、経営方針の浸透状況や規定遵守状況を監査しております。監査役は取締役の業務執行状況の監査とともに、臨店調査により内部規定・基準の妥当性を検証しております。監査役と内部監査室はそれぞれの監査方針・計画の決定、監査結果の評価において、会計監査人による監査結果と併せて相互に情報交換を行い、会社業務の適法性・妥当性の確保に万全を期しております。また、監査役を補助する要員を必要とするときは、適切な者を指名し、監査役の指揮・命令の下で、取締役から独立して、補助業務に当たらせることとしています。

なお、社外監査役加藤正樹氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

社外取締役及び社外監査役

取締役(会)に対する監督機能については、2名の社外監査役(独立役員)が取締役会に出席して取締役の業務執行を監督するほか、公認会計士、弁護士として専門的な立場から適宜意見を述べており、常勤監査役を含め監査役会がその機能を適切に果たしていると判断しているため、現時点では社外取締役を選任しておりません。

また、社外取締役に期待される機能を代替する取組みとしては、適時開示規則を遵守し、決算説明会等のIR活動にも積極的に取組むことを通じて、経営者の対外的な説明責任を果たすとともに、経営の透明性の確保を徹底する方針であります。

しかしながら独立した第三者としての経営監視の観点から、社外取締役候補者の選定、或いは新しい枠組みの取締役会のあり方等を、今後も検討して参ります。

監査役については、監査役4名のうち2名は社外監査役(うち女性1名)であり、かつ東京証券取引所及び名古屋証券取引所の上場規程による独立役員であります。

実務に精通した常勤監査役と法務、財務・会計に関して、それぞれ専門的知見を有する社外監査役の協議によって、取締役(会)に対する監督機能が適切に発揮されています。

社外取締役及び社外監査役の選任にあたっては、その独立性に関する基準または方針を定めておりませんが、東京証券取引所が定める社外役員の独立性に関する事項を参考にしております。具体的には「上場管理等に関するガイドライン 5.(3)の2」を参考に独立性の判断を行っております。

社外監査役と当社の間には、記載すべき人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役加藤正樹氏は、株式会社ナ・デックスの社外監査役を兼職しております。当該会社と当社との間には記載すべき人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。また、同氏は平成19年6月まで当社の会計監査人である監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ)の代表社員でありました。当該監査法人と当社との間には、会社法及び金融商品取引法に基づく監査及び四半期レビューに関して契約を締結しております。その他記載すべき人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

なお、事業年度の会計監査の開始に当たり、監査役は会計監査人より、監査の基本方針・重点監査事項・主な監査内容等を記した監査計画書入手し、意見交換を実施しています。監査役と会計監査人は、定期的に情報・意見交換を行うほか、監査役は会計監査への適時立会いを実施しています。また、四半期決算及び年度決算においては、レビュー報告会及び監査報告会を開催し、会計監査人から監査の方法及びその結果について報告を受け、意見交換を実施しています。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

区 分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等種類別の総額(百万円)				対象となる役員 の員数(人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役	169	169	-	-	-	8
監査役 (社外監査役を除く)	18	18	-	-	-	2
社外監査役	3	3	-	-	-	2

(注) 1. 報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2. 取締役及び監査役の報酬限度額は、平成5年6月29日開催の定時株主総会決議において、取締役240百万円(年額)、監査役30百万円(年額)を限度としております。なお、使用人兼務取締役の使用人分給与は含みません。

ロ．役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社は役員報酬の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めた規程はありませんが、次のような方針、方法によって決定しております。

役員に対する報酬は、基本報酬と賞与により構成されており、退職慰労金については、平成20年6月27日をもって制度を廃止しております。

取締役に対する基本報酬は、株主総会で承認された限度額の範囲内で、取締役会決議により一任された代表取締役が具体的な決定をしております。代表取締役は、独断を回避するため、外部の情報や社外第三者の意見を参考に、役位、役割、会社業績、他社水準等を総合的に勘案し、具体的な決定をしております。また、賞与については、代表取締役が会社業績及び各取締役の貢献度を勘案のうえ、総額を算定し、定時株主総会で承認を得ることにしています。

監査役に対する基本報酬は、株主総会で承認された限度額の範囲内で、役割を勘案し、監査役の協議により決定しています。監査役の賞与については、会社業績及び役割を勘案のうえ、総額を算定し、取締役の賞与と一括して定時株主総会で承認を得ることにしています。

なお、当事業年度(平成26年3月期)に係る役員賞与はありません。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

15銘柄 1,250百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社名古屋銀行	655,000	279	取引関係の維持のため
株式会社愛知銀行	45,600	251	取引関係の維持のため
アイカ工業株式会社	83,300	144	協業関係強化のため
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	259,080	144	取引関係の維持のため
アイホン株式会社	56,200	87	協業関係強化のため

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
鴻池運輸株式会社	50,000	75	協業関係強化のため
東プレ株式会社	79,400	74	協業関係強化のため
中部水産株式会社	162,000	54	協業関係強化のため
株式会社エディオン	42,400	18	協業関係強化のため
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	25,610	11	取引関係の維持のため
株式会社りそなホールディングス	8,152	3	取引関係の維持のため

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社名古屋銀行	655,000	263	取引関係の維持のため
株式会社愛知銀行	45,600	242	取引関係の維持のため
アイカ工業株式会社	83,300	191	協業関係強化のため
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	259,080	146	取引関係の維持のため
アイホン株式会社	56,200	96	協業関係強化のため
東プレ株式会社	79,400	87	協業関係強化のため
鴻池運輸株式会社	50,000	79	協業関係強化のため
株式会社御園座	240,000	58	地域貢献の一環として
中部水産株式会社	162,000	42	協業関係強化のため
株式会社エディオン	42,400	24	協業関係強化のため
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	25,610	11	取引関係の維持のため
株式会社りそなホールディングス	8,152	4	取引関係の維持のため

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式は保有しておりません。

会計監査の状況

イ．業務を執行した公認会計士の氏名及び所属する監査法人名

水上 圭祐（有限責任監査法人ト・マツ）

神野 敦生（有限責任監査法人ト・マツ）

ロ．監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 12名

会計士補等 3名

その他 4名

取締役の定数

当社の取締役は、8名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

自己の株式の取得

当社は、機動的な資本政策の遂行が可能になるように、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とし、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
20	-	20	-

【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査公認会計士等が作成する監査計画概要書に基づき、内部監査室、監査役、監査公認会計士等の間で意見交換をし、適正な監査時間等を見積った上で、監査役会の同意を得て決定しております。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の内容や変更等を適切に把握し、社内周知できる体制を整備しております。また、公益財団法人財務会計基準機構や監査法人等が主催する会計基準等のセミナーに参加しております。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,066	13,162
売掛金	1,018	1,003
商品及び製品	24	37
原材料及び貯蔵品	454	506
前払費用	426	410
繰延税金資産	340	326
その他	114	92
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	15,445	15,539
固定資産		
有形固定資産		
建物	19,902	19,829
減価償却累計額	11,376	11,448
建物(純額)	8,526	8,380
構築物	1,708	1,790
減価償却累計額	1,181	1,222
構築物(純額)	526	568
機械及び装置	526	550
減価償却累計額	457	438
機械及び装置(純額)	68	112
車両運搬具	25	25
減価償却累計額	6	14
車両運搬具(純額)	18	10
工具、器具及び備品	2,934	3,023
減価償却累計額	2,348	2,462
工具、器具及び備品(純額)	586	560
土地	5,637	5,637
リース資産	1,118	1,103
減価償却累計額	675	796
リース資産(純額)	443	307
建設仮勘定	9	0
有形固定資産合計	15,816	15,577
無形固定資産		
借地権	28	25
ソフトウェア	218	184
商標権	1	1
その他	20	16
無形固定資産合計	269	228

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1,314	1,417
出資金	0	0
長期前払費用	139	130
繰延税金資産	693	651
長期預金	520	520
差入保証金	15,251	15,002
その他	45	47
貸倒引当金	27	30
投資その他の資産合計	7,936	7,739
固定資産合計	24,022	23,546
資産合計	39,467	39,085
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,268	1,273
短期借入金	950	950
リース債務	187	145
未払金	179	80
未払費用	1,876	1,856
未払法人税等	730	371
前受金	0	0
預り金	257	187
賞与引当金	494	499
ポイント引当金	65	130
資産除去債務	22	42
その他	249	215
流動負債合計	6,283	5,752
固定負債		
リース債務	277	177
長期未払金	344	322
退職給付引当金	1,479	1,484
資産除去債務	1,358	1,325
長期預り保証金	23	23
固定負債合計	3,482	3,333
負債合計	9,765	9,085
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金		
資本準備金	9,872	9,872
その他資本剰余金	2	2
資本剰余金合計	9,875	9,875

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
利益剰余金		
利益準備金	392	392
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	49	46
別途積立金	8,200	8,200
繰越利益剰余金	1,087	1,340
利益剰余金合計	9,728	9,979
自己株式	113	116
株主資本合計	29,547	29,794
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	155	205
評価・換算差額等合計	155	205
純資産合計	29,702	30,000
負債純資産合計	39,467	39,085

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高		
商品及び製品売上高	45,380	45,710
不動産賃貸収入	10	10
売上高合計	45,391	45,721
売上原価		
商品及び製品売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	29	24
当期商品仕入高	178	183
当期製品製造原価	1,339	1,284
当期店舗材料費	12,630	12,940
合計	14,178	14,432
商品及び製品期末たな卸高	24	37
商品及び製品売上原価	14,154	14,394
不動産賃貸原価	2	2
売上原価合計	14,156	14,396
売上総利益	31,235	31,325
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	1,233	1,153
役員報酬	197	191
給料及び手当	13,884	14,001
賞与引当金繰入額	488	492
退職給付費用	450	429
福利厚生費	1,273	1,315
募集教育費	209	247
旅費及び交通費	525	536
水道光熱費	1,621	1,749
消耗品費	1,260	1,199
修繕費	570	580
清掃装飾管理費	987	1,005
租税公課	180	181
事業税	135	135
事業所税	49	53
賃借料	4,111	4,076
減価償却費	1,379	1,376
その他	1,179	1,207
販売費及び一般管理費合計	29,739	29,934
営業利益	1,496	1,390

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業外収益		
受取利息	22	17
受取配当金	19	22
受取手数料	6	5
協賛金収入	29	15
受取補償金	76	-
固定資産受贈益	-	8
雑収入	12	15
営業外収益合計	165	84
営業外費用		
支払利息	8	8
寄付金	1	-
賃貸借契約解約損	5	34
雑損失	7	7
営業外費用合計	23	50
経常利益	1,637	1,424
特別利益		
固定資産売却益	2 6	-
特別利益合計	6	-
特別損失		
固定資産除却損	3 82	3 40
減損損失	4 93	4 69
特別損失合計	175	110
税引前当期純利益	1,468	1,313
法人税、住民税及び事業税	788	672
法人税等調整額	59	29
法人税等合計	728	701
当期純利益	739	612

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費					
1. 期首原材料たな卸高		514		443	
2. 当期原材料仕入高		12,876		13,210	
3. 配送費		647		665	
合計		14,038		14,318	
4. 期末原材料たな卸高		443		472	
5. 他勘定振替高	1	12,630	965 72.1	12,940	906 70.6
労務費			193 14.4		183 14.3
経費			181 13.5		194 15.1
(うち消耗品費)			(14) (1.1)		(15) (1.2)
(うち減価償却費)			(34) (2.6)		(40) (3.2)
当期総製造費用			1,339 100.0		1,284 100.0
当期製品製造原価	2		1,339		1,284

- (注) 1 他勘定振替高の内訳は、店舗材料費であります。
2 原価計算の方法は、総合原価計算によっております。

【不動産賃貸原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
減価償却費		0	30.4	0	29.4
租税公課		1	67.0	1	67.9
その他経費		0	2.6	0	2.7
合計		2	100.0	2	100.0

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金			
					固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	10,056	9,872	2	9,875	392	52	8,200	706	9,351
当期変動額									
固定資産圧縮積立金の取崩						3		3	-
剰余金の配当								361	361
当期純利益								739	739
自己株式の取得									
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	3	-	380	377
当期末残高	10,056	9,872	2	9,875	392	49	8,200	1,087	9,728

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	112	29,171	17	17	29,153
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
剰余金の配当		361			361
当期純利益		739			739
自己株式の取得	1	1			1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			172	172	172
当期変動額合計	1	376	172	172	548
当期末残高	113	29,547	155	155	29,702

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
						固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	10,056	9,872	2	9,875	392	49	8,200	1,087	9,728
当期変動額									
固定資産圧縮積立金の取崩						3		3	-
剰余金の配当								361	361
当期純利益								612	612
自己株式の取得									
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	3	-	253	250
当期末残高	10,056	9,872	2	9,875	392	46	8,200	1,340	9,979

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	113	29,547	155	155	29,702
当期変動額					
固定資産圧縮積立金の取崩		-			-
剰余金の配当		361			361
当期純利益		612			612
自己株式の取得	3	3			3
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			50	50	50
当期変動額合計	3	247	50	50	297
当期末残高	116	29,794	205	205	30,000

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	1,468	1,313
減価償却費	1,414	1,418
減損損失	93	69
賞与引当金の増減額（は減少）	11	4
退職給付引当金の増減額（は減少）	52	5
ポイント引当金の増減額（は減少）	34	65
貸倒引当金の増減額（は減少）	0	3
受取利息及び受取配当金	41	39
支払利息	8	8
受取補償金	76	-
固定資産売却損益（は益）	6	-
固定資産除却損	82	40
賃貸借契約解約損	5	34
売上債権の増減額（は増加）	66	14
たな卸資産の増減額（は増加）	121	65
その他の資産の増減額（は増加）	5	22
仕入債務の増減額（は減少）	46	4
その他の流動負債の増減額（は減少）	21	146
長期未払金の増減額（は減少）	5	21
その他	4	38
小計	3,040	2,770
利息及び配当金の受取額	42	39
利息の支払額	8	8
補償金の受取額	-	38
賃貸借契約解約による支払額	2	16
法人税等の支払額	384	1,030
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,688	1,792
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	997	1,192
有形固定資産の除却による支出	17	51
有形固定資産の売却による収入	9	-
無形固定資産の取得による支出	77	88
投資有価証券の取得による支出	-	30
投資有価証券の償還による収入	5	3
貸付金の回収による収入	2	-
長期前払費用の取得による支出	3	4
差入保証金の差入による支出	52	36
差入保証金の回収による収入	218	259
会員権の売却による収入	8	-
その他	2	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	907	1,144

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	950	950
短期借入金の返済による支出	950	950
リース債務の返済による支出	199	187
自己株式の取得による支出	1	3
配当金の支払額	361	361
財務活動によるキャッシュ・フロー	562	552
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,217	95
現金及び現金同等物の期首残高	11,848	13,066
現金及び現金同等物の期末残高	1 13,066	1 13,162

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)

時価のないもの

総平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品・仕掛品及び原材料

総平均法による原価法

商品

先入先出法による原価法

貯蔵品

先入先出法による原価法

なお、貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定

3. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3～50年
構築物	10～30年
器具及び備品	2～20年

また、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

長期前払費用

定額法

4. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度に対応する額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき、当事業年度に見合う分を計上しております。

なお、当事業年度は該当する引当額はありません。

ポイント引当金

顧客へ付与したポイントの利用に備えるため、当事業年度末において将来利用されると見込まれる額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

(1) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

(2) 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、発生事業年度に全額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

5. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

（未適用の会計基準等）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充等について改正されました。

適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成26年4月1日以後開始する事業年度の期首から適用予定であります。なお、当該会計基準等には経過的な取り扱いが定められているため、過去の期間の財務諸表に対しては遡及適用しません。

当該会計基準等の適用による影響

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正による財務諸表に与える影響額は、退職給付引当金が457百万円及び繰延税金資産が162百万円それぞれ減少し、期首利益剰余金が294百万円増加する見込みであります。なお、損益計算書に与える影響は軽微となる見込みであります。

（表示方法の変更）

財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により記載を省略しております。

（貸借対照表関係）

1 担保資産

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
差入保証金	10百万円	10百万円
計	10	10

上記を資金決済に関する法律に基づき供託しております。

(損益計算書関係)

1 店舗材料費は、営業店舗において直接消費した食材費であります。

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
建物	0百万円	- 百万円
車両運搬具	6	-
計	6	-

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
建物	60百万円	19百万円
その他	21	21
計	82	40

4 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

地域	主な用途	種類	減損損失 (百万円)
愛知県	2 店舗	建物等	80
三重県	1 店舗	建物等	12
計			93

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、各店舗を基本単位とし、また、賃貸資産及び遊休資産については物件単位毎にグルーピングしております。

当事業年度におきまして、営業活動から生ずる損益が継続してマイナス、あるいは、収益力の低下により投資額の回収が見込めない店舗について減損を認識し、各々の帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。当該減少額を減損損失(93百万円)として特別損失に計上しました。その内訳は、建物85百万円、その他7百万円であります。

なお、資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。

当事業年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

地域	主な用途	種類	減損損失 (百万円)
大阪府	3 店舗	建物等	49
福岡県	1 店舗	建物等	20
計			69

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、各店舗を基本単位とし、また、賃貸資産及び遊休資産については物件単位毎にグルーピングしております。

当事業年度におきまして、営業活動から生ずる損益が継続してマイナス、あるいは、収益力の低下により投資額の回収が見込めない店舗について減損を認識し、各々の帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。当該減少額を減損損失(69百万円)として特別損失に計上しました。その内訳は、建物54百万円、その他15百万円であります。

なお、資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	25,913	-	-	25,913
合計	25,913	-	-	25,913
自己株式				
普通株式(注)	73	0	-	74
合計	73	0	-	74

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	180	7	平成24年3月31日	平成24年6月28日
平成24年10月30日 取締役会	普通株式	180	7	平成24年9月30日	平成24年11月29日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	180	利益剰余金	7	平成25年3月31日	平成25年6月27日

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	25,913	-	-	25,913
合計	25,913	-	-	25,913
自己株式				
普通株式(注)	74	1	-	75
合計	74	1	-	75

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	180	7	平成25年3月31日	平成25年6月27日
平成25年10月30日 取締役会	普通株式	180	7	平成25年9月30日	平成25年11月29日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	180	利益剰余金	7	平成26年3月31日	平成26年6月27日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金勘定	13,066百万円	13,162百万円
現金及び現金同等物	13,066	13,162

2 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産の額	41百万円	46百万円
ファイナンス・リース取引に係る債務の額	43	48

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として店舗における送迎用バス及び情報機器(「車両運搬具」及び「器具及び備品」)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、資金予算及び資金計画の範囲内で、安全性、流動性、収益性に留意して行うこととしております。また、資金調達については、銀行借入、リース、新株・社債等の発行による方針であります。なお、当社はデリバティブ取引については、現在利用しておらず、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金については、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社の経理規程に従い、掛売取引を新規に開始するときは経理部長の承認を要することとしております。また、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行い、締め後3ヶ月を経過した場合は、速やかな回収を図る体制としております。

投資有価証券のうち株式等については、市場価格の変動リスクに晒されております。主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価を取締役に報告しております。また、債券は時価の状況にもよりますが、すべて満期まで保有する予定であります。

差入保証金は店舗用の土地・建物の賃借に伴うものであって、これについては貸主の信用リスクに晒されております。当該リスクについては、当社の業務規程に従って、定期的に貸主の信用状況を把握することとしております。また、差入保証金については、契約期日前の解約に伴う返還請求権喪失のリスクに晒されておりますが、これについては、賃貸借期間を適切に設定するよう努めております。

営業債務である買掛金は、平均1ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金には主に営業取引に係る資金調達であります。借入金等、金融機関からの資金調達は、経理規程に従って稟議決裁を要し、重要なものについては取締役会の承認を要することとしております。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、重要性に乏しいのでヘッジ手段は講じておりません。

営業債務や短期借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社では、月次に資金収支計画を作成して管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

前事業年度(平成25年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	13,066	13,066	-
(2) 売掛金	1,018	1,018	-
(3) 投資有価証券	1,313	1,313	-
(4) 長期預金	520	478	41
(5) 差入保証金	5,251	4,936	315
資 産 計	21,170	20,813	356
(1) 買掛金	1,268	1,268	-
(2) 短期借入金	950	950	-
(3) 未払法人税等	730	730	-
負 債 計	2,949	2,949	-

当事業年度（平成26年3月31日）

（単位：百万円）

区 分	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	13,162	13,162	-
(2) 売掛金	1,003	1,003	-
(3) 投資有価証券	1,417	1,417	-
(4) 長期預金	520	475	44
(5) 差入保証金	5,002	4,700	301
資 産 計	21,106	20,760	346
(1) 買掛金	1,273	1,273	-
(2) 短期借入金	950	950	-
(3) 未払法人税等	371	371	-
負 債 計	2,594	2,594	-

（注）1．金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券等は基準価額又は取引金融機関から提示された価格によっております。

(4) 長期預金

これらの時価について、取引金融機関から提示された価格によっております。

(5) 差入保証金

これらの時価について、契約期間及び過去の契約更新等並びに信用リスクを勘案し、その将来のキャッシュ・フローを国債の利回り等の適切な利率で割り引いた現在価値により算定してあります。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

（単位：百万円）

区 分	前事業年度 （平成25年3月31日）	当事業年度 （平成26年3月31日）
非上場株式	0	0

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	13,066	-	-	-
売掛金	1,018	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
債券（社債）	-	-	100	-
長期預金	-	-	-	520
差入保証金	203	2,510	1,514	1,114
合計	14,288	2,510	1,614	1,634

当事業年度（平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	13,162	-	-	-
売掛金	1,003	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
債券（社債）	-	-	100	-
長期預金	-	-	-	520
差入保証金	140	2,474	1,279	1,034
合計	14,306	2,474	1,379	1,554

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度(平成25年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
(1) 株式	983	741	241
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	100	99	1
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
小計	1,084	840	243
貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
(1) 株式	162	200	37
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	66	74	7
小計	229	274	45
合計	1,313	1,115	197

当事業年度（平成26年3月31日）

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
(1) 株式	1,065	771	294
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	100	99	1
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
小計	1,166	870	295
貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
(1) 株式	184	200	15
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	66	71	4
小計	251	271	20
合計	1,417	1,142	274

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
非上場株式	0	0

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の株式には含めておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）及び当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型の制度として、退職一時金及び確定給付企業年金制度並びに複数事業主により設立された厚生年金基金制度を採用しております。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	(平成24年3月31日現在)
年金資産の額	119,690百万円
年金財政計算上の給付債務の額	135,478
差引額	15,788

(2) 制度全体に占める当社の掛金拠出割合

平成24年3月分 3.73%

(3) 補足説明

上記(1)差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(平成24年3月31日現在 553百万円)であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は元利均等償却であり、償却残余期間は3年8ヶ月であります。なお、上記(2)の割合は、当社の実際の負担割合とは一致しません。

2. 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務(百万円)	2,265
(2) 年金資産(百万円)	822
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(百万円)	1,443
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	36
(5) 貸借対照表計上額純額(3)+(4)(百万円)	1,479
(6) 退職給付引当金(5)(百万円)	1,479

3. 退職給付費用に関する事項

(1) 勤務費用(百万円)	165
(2) 利息費用(百万円)	33
(3) 期待運用収益(百万円)	11
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	34
(5) 退職給付費用(1)+(2)+(3)+(4)(百万円)	221

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

1.5%

(3) 期待運用収益率

1.5%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

1年(発生事業年度に全額を費用処理しております。)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

5年(各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。)

当事業年度（自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は確定給付型の制度として、退職一時金及び確定給付企業年金制度並びに複数事業主により設立された厚生年金基金制度を採用しております。

なお、複数事業主制度の厚生年金基金制度は、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

2. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、244百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	（平成25年 3月31日現在）
年金資産の額	142,236百万円
年金債務の額（責任準備金+未償却過去勤務債務残高）	148,049
差引額	5,813

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社の割合

平成25年 3月分 3.77%

(3) 補足説明

上記(1)差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高（平成25年 3月31日現在 417百万円）であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は元利均等償却であり、償却残余期間は2年 8ヶ月であります。なお、上記(2)の割合は、当社の実際の負担割合とは一致しません。

3. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	2,265百万円
勤務費用	164
利息費用	33
数理計算上の差異の発生額	6
退職給付の支払額	132
退職給付債務の期末残高	2,324

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	822百万円
期待運用収益	12
数理計算上の差異の発生額	3
事業主からの拠出額	110
退職給付の支払額	61
年金資産の期末残高	880

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	1,060百万円
年金資産	880
	180
非積立型制度の退職給付債務	1,263
未積立退職給付債務	1,444
未認識数理計算上の差異	40
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,484
退職給付引当金	1,484
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,484

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	164百万円
利息費用	33
期待運用収益	12
数理計算上の差異の費用処理額	0
確定給付制度に係る退職給付費用	187

(5) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

一般勘定	100%
合計	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 1.5%

長期期待運用収益率 1.5%

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
流動の部		
繰延税金資産		
賞与引当金	187百万円	177百万円
未払事業税等	90	60
資産除去債務	8	14
ポイント引当金	24	46
その他	28	27
繰延税金資産合計	340	326
固定の部		
繰延税金資産		
退職給付引当金	529	527
長期未払金	123	114
減損損失	220	167
資産除去債務	482	471
投資有価証券評価損	29	29
その他	79	117
繰延税金資産小計	1,464	1,428
評価性引当額	526	519
繰延税金資産合計	938	908
繰延税金負債		
有形固定資産	173	160
固定資産圧縮積立金	27	25
その他有価証券評価差額金	42	69
その他	1	1
繰延税金負債合計	245	257
繰延税金資産の純額	693	651

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	37.9%	37.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.5	5.1
住民税均等割	8.2	9.0
評価性引当額	0.9	0.5
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	1.9
その他	0.0	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	49.7	53.4

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.9%から35.5%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は24百万円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(持分法損益等)

前事業年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)及び当事業年度(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

当社は、関係会社がありませんので該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

各飲食店舗用の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から20年と見積り、割引率は1.5~2.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
期首残高	1,367百万円	1,380百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	26	24
時の経過による調整額	18	17
資産除去債務の履行による減少額	13	71
その他の増減額(は減少)	18	16
期末残高	1,380	1,367

(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)及び当事業年度(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社は、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がありませんので、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がありませんので、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高であって、損益計算書の売上高の10%以上を占めるものはありませんので、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社は単一セグメントのため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)及び当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社は、関連当事者との重要な取引はありませんので該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
1株当たり純資産額	1,149円49銭	1,161円08銭
1株当たり当期純利益金額	28円61銭	23円70銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
当期純利益(百万円)	739	612
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	739	612
普通株式の期中平均株式数(千株)	25,840	25,838

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引 当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	19,902	686	759 (54)	19,829	11,448	753	8,380
構築物	1,708	145	63 (5)	1,790	1,222	89	568
機械及び装置	526	68	43	550	438	24	112
車両運搬具	25	-	-	25	14	7	10
工具、器具及び備品	2,934	275	186 (10)	3,023	2,462	286	560
土地	5,637	-	-	5,637	-	-	5,637
リース資産	1,118	46	61	1,103	796	182	307
建設仮勘定	9	1,254	1,264	0	-	-	0
有形固定資産計	31,863	2,476	2,377 (69)	31,961	16,383	1,344	15,577
無形固定資産							
借地権	38	-	-	38	13	3	25
ソフトウェア	434	38	11	460	275	69	184
商標権	3	-	-	3	1	0	1
その他	29	0	3	26	9	0	16
無形固定資産計	506	39	15	529	301	73	228
長期前払費用	139	11	20	130	-	-	130

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

[建物 他] 新設店舗 6店(うち1店は業態転換) 591百万円
既存店舗改装等 2店 223百万円
[リース資産] 送迎用バス 41百万円

[建設仮勘定] 新設店舗等の建物工事代金等

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

[建物 他] 改装および撤退等 736百万円

3. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	950	950	0.9	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	187	145	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	277	177	-	平成27年4月～ 平成34年11月
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	1,414	1,273	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	55	39	28	20

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	28	29	0	26	31
賞与引当金	494	499	494	-	499
ポイント引当金	65	130	65	-	130

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権の貸倒実績率による洗替えであります。

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	130
預金	
当座預金	8,655
普通預金	4,071
通知預金	70
定期預金	235
小計	13,031
合計	13,162

ロ．売掛金

主な相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
株式会社ジェーシービー	258
三菱UFJニコス株式会社	239
りそなカード株式会社	146
ユーシーカード株式会社	105
トヨタファイナンス株式会社	36
その他	217
合計	1,003

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円) (A)	当期発生高 (百万円) (B)	当期回収高 (百万円) (C)	当期末残高 (百万円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	月平均発生高 (百万円) (E) $\frac{(B)}{12}$	月平均売掛金残高 (百万円) (F) $\frac{(A) + (D)}{2}$	滞留期間 $\frac{(F)}{(E)}$
1,018	19,287	19,301	1,003	95.1	1,607	1,011	0.6ヶ月

(注) 金額は消費税等を含めております。

八．たな卸資産

区分	主な内容	金額（百万円）
商品及び製品	胡麻だれ・ぼん酢等	4
	しぐれ煮等	32
	計	37
原材料及び貯蔵品	肉類	134
	魚介類	68
	野菜類	67
	飲料	31
	米・パン類	8
	乳製品	2
	調理済加工食品他	158
	消耗品（注）	34
	計	506
合計	-	544

（注）営業店で使用する消耗品及び外販の副資材に係るものであります。

固定資産
差入保証金

内容	金額（百万円）
店舗・事務所差入保証金（注）	4,952
その他	50
合計	5,002

（注）建設協力金及び駐車場差入保証金を含んでおります。

流動負債
買掛金

相手先	金額（百万円）
株式会社赤羽商店	49
株式会社鈴木酒販	45
株式会社西原商会	43
株式会社小林食肉	38
株式会社エディオック	36
その他	1,060
合計	1,273

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高(百万円)	10,398	20,335	33,370	45,721
税引前四半期(当期)純利益金額 又は税引前四半期純損失金額() (百万円)	183	821	238	1,313
四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額() (百万円)	155	606	6	612
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額 ()(円)	6.02	23.49	0.25	23.70

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額 ()(円)	6.02	17.47	23.74	23.45

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・売渡手数料	(特別口座) 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 - 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載する。
株主に対する特典	株主優待制度 株主優待の方法 100株以上保有の株主に対して、下記のように当社の全店舗で利用できる株主優待券を年2回交付 100株以上 500株未満 1,600円相当 500株以上 1,000株未満 8,000円相当 1,000株以上 16,000円相当 対象株主及び発行日 3月末現在の単元株主に対し、6月末に発行 9月末現在の単元株主に対し、12月中旬に発行 有効期限 発行日より1年間

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求する権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第64期）（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日） 平成25年6月26日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成25年6月26日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

事業年度（第65期第1四半期）（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）平成25年8月9日関東財務局長に提出

事業年度（第65期第2四半期）（自平成25年7月1日 至平成25年9月30日）平成25年11月8日関東財務局長に提出

事業年度（第65期第3四半期）（自平成25年10月1日 至平成25年12月31日）平成26年2月7日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。 平成25年6月27日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年6月26日

株式会社木曽路

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水上 圭祐 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神野 敦生 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社木曽路の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第65期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社木曽路の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社木曽路の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社木曽路が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

X B R L データは監査の対象には含まれていません。